

經典餘師

詩經

八

口 11

1029

36



詩經卷之八

頌四

頌の詩ハ宗廟の樂ヲ歌テ功ヲ成
リテ德ヲ示シテ神明ニ告メテ
頌の字ハ形容テリト注シテ
御徳の形容ナリ

○周頌清廟之什四之一

清廟ハ清廟
之什ハ清廟
四之一ハ

の義ヲテ文王の廟所ナリ廟ハ祖宗
祭靈所ナリ墓所ナリ上ニ頌四と
ウハ第一と國風第二と小雅第三と大
雅第四との頌ナリ此ハ一とウハるの義

清廟一章

上ニ詳ナリ

於穆清廟。肅雝顯相。濟濟多士。秉文
之德。對越在天。駿奔走在廟。不顯不

徳と秉天と在
對越と駿奔
徒して廟と在
顯るや承
不や人射
無射

維天之命一章

維天之命於穆
顯之不於王
之徳之純
假と以て我と

溢す我其之
と收駿と我文
王と恵と曾
孫之と篤と

維清一章

維清と緝熙
ちと文王之典
肇て禮と用と
近て成と有維
周之禎と

烈文一章

經典餘師

承無射於人斯

高大深遠
人々との容貞肅敬
多士も文王の徳と秉守いづれも
廟堂の中と奔走と
天と在と
文王の徳と天地と顯と
不や永と誰一人射と

維天之命一章

維天之命於穆不已於乎不顯文王
之徳之純假以溢我我其收之駿恵
我文王曾孫篤之

維清一章

維清緝熙文王之典肇禮迄用有成
維周之禎

烈文一章

詩經卷之八

三

彼は作れん文王よりさすまでわが民康
 大王彼は祖めんとす文王より
 岐山の下は行道夷然とけり國富民壯
 子々孫々保治めんとす
 一説は彼は大王とす
 又民とす

昊天有成命一章

昊天有成命一章

周の第三代成王と祭の詩

昊天成命有二
 后之受成王
 敢て康せ不や
 夙夜命と基
 て有密於緝熙
 一厥心と
 單肆其之と
 靖と

昊天有成命二后受之成王不敢康
 夙夜基命宥密於緝熙單厥心肆其
 靖之
 昊天より命のふて周は天下の君と
 天命と受め成王よりさすまでわが民康
 天命とす墮人として畏て常と心と康め
 夙夜より及て有密と動と天の命と
 一其心と

我將一章

我將一章

文王と上帝の御徳より祭の詩

我將我享維羊維牛維天
 其之と右
 儀式と文王
 之典と刑
 日と四方と靖
 王既之と右
 享我其夙夜
 天之威と畏時
 于之と保と

我將我享維羊維牛維天其右之儀
 式刑文王之典日靖四方伊嘏文王
 既右享之我其夙夜畏天之威于時
 保之
 文王と上帝の御徳より祭の詩
 善文王の典と刑と伊嘏文王の徳と嘏と四方と靖
 日と大平と伊嘏文王の徳と嘏と四方と靖
 既右享之右席は享め子孫の徳とす
 夙夜天の威命より畏る
 保と

時邁一章

天子十二年毎ニ天下ニ會ス

歌のよき時

時邁其邦昊天其子之寶序有周

薄丘震之莫不力震力懷赤白神及河

高遠元王維后明昭有周王月有仁

時皇元王保之ル 亂始不定ル 於

巡守あり万民と安下ありて帝と
いふ

周の代と右序しむと天子威徳を以て震し治めんとす大國を小國にうつり

地までも善化して震疊しんがぶらゝのなる百

時夏于肆九
王之と保と

何^{ナニ}地^チも善^ニ化^カし震^{チカ}疊^カの誠^{マコト}敬^{ウヤミ}の

徳と享あじひちかひこの
懐柔こころなく
守護しゆごの
允いんの
の
王

天より永く后にふりての周の代と

明
昭
有
德
才
智
人
々
驥
て
序
と

式く驛佐に在りて武士とし

又弓矢と繫り文徳の懿美を廣く

求て時夏に歸しきぬと云ふ所

二天
五
四
保

[illegible]

執競一章

武王成王康王の三王を
祭る詩

執競武王無兢維烈不顯成康上帝

是皇自被成康奄有四方其明

鐘鼓喤喤磬筦將將降福穰穰降福

經與余而

精經卷八

鐘鼓皇々々々
磬筦將々々々
福兮降兮
穰々々々福兮
降兮簡兮
威儀々々々々
既醉既飽
福祿來反

思文一章
文王后稷
思文一章
配我烝民

爾極貽我來牟
帝命率育無此疆爾
界陳常于時夏

周頌臣工之什
四之二
臣工一章

簡簡威儀及反既醉既飽福祿來反

武王の武徳の競を執るも君のつゝめよ天

下の民と安んずる治めよの競に誰も烈とら

武王の法を繼ぐべきの徳顯とぞんやとら

上帝にぐみんてその徳を皇にふりてのゆへ

康王にふりての奄の四方の國々を有てて

明々天下を分るる祭の音樂鐘鼓の

音も皇々磬筦の聲將々々々神明感應あ

て福祿と降にふりて穰々簡々々々祭

あつるその威儀と及々福酒とふりて飽

ふり福祿來反

思文一章

南の郊に御先祖后稷を天

思文后稷克配彼天立我烝民莫匪

爾極貽我來牟帝命率育無此疆爾

界陳常于時夏后稷の周の先祖

配すけ文徳の后稷を思ふの帝五穀と大功徳あ

る我烝衆の民と世に生しめよ禹の徳

の極るや又我民に來牟とめかり食物を貽

るにやんて此の疆を率育んて命を

隔てをかんす五常忠孝の道を

中夏のころる教陳を

周頌臣工之什四之二

臣工一章

諸侯が祭を助

歸よ及で天子の廟へ舞へ舞へ告歸して

へ歸よ及で天子の樂歌なり天子戒め告め

嗟々臣工爾の
公は在と敬し
て王爾は成と
釐來各來茹嗟
嗟保介維莫之
春亦又何と
求新金と如何
於皇來年將
厥明と受とす
明昭と上と帝
用て康年と迄
我衆人と命と
乃の錢鏹と庫
奄々銓艾と觀

て農作の政道を
勅しうふなり

嗟嗟臣工敬爾在公王釐爾成來咨
來茹嗟嗟保介維莫之春亦又何求
何如新金於皇來年將受厥明明昭
上帝迄用康年命我衆人庫乃錢鏹
奄觀銓艾
嗟々國縣の保介の人々も莫春なり
いづる農事の外の何事を求むと云ふ新金田
ちん如何と心とつて來年等皇とのうら
天より明く賜ふものと受とすものと云ふ農

噫嘻一章
噫嘻成王既
昭假爾爾時農
夫率厥百穀
播厥駿駒爾
私を發し三十
里と終亦爾の
耕と服と
十千維耦

事をたえりて康年と迄とすのいふ
我衆人農具を庫とるを戒めけり
一錢鏹の鋤の類なり銓のまかり草と文
たりとを觀とすなり

噫嘻一章
噫嘻成王既昭假爾爾時農夫播厥
百穀駿發爾私終三十里亦服爾耕
十千維耦
假りて農法を告さる農夫と率と
て百の穀物を播しとすなり
一の耦耕してはるなり
夫の田地ハ三十里餘なり三十里と人の見と
一と三十里と云ふ眼力と云ふを以て

振鷺一章

把^とと宗^ととの二^に國^{こく}を夏^かと殷^{いん}と二^に代^{だい}の王^{わう}孫^{そん}として當時^{たうじ}

周の客諸侯なり周の都に來朝して祭を
助佐するの時を奏する樂なり

振鷺于飛彼
 西雖于我客
 正亦斯容有彼
 無此在惡
 無底幾
 夙夜以永
 誓と終

振鷺于飛于彼西雝我客戾止亦有
斯容在彼無惡在此無訛庶幾夙夜
以永終譽

の白く潔清を以て客の他より来り居るは
 清徳あるよき人依て斯客なりといふなり
 誠より望むの賢徳の諸侯は彼邦よりて
 民はあつて惡くなく又此周朝よりて
 人となりて
 猶庶幾とも同夜徳をばあ怠慢を

く譽を永く未終

豊年一章

豐年一章

後田祖方社を祭るの

徳をくひ

豊年黍多稌
 多亦高廩有萬
 億及秬酒為
 醴を祖妣
 烝畀を以て
 百禮を洽福
 いを降と孔と
 比日
 備也

豐年多黍多稌亦有高廩萬億及秬
為酒為醴烝畀祖妣以洽百禮降福
孔皆

け内に入るとの數萬億億億億億億億億億億
よつとよつとよつと依て酒よけり酒酒酒酒酒酒
やして先祖祖先妣祖烈舉て百の祀儀をにじ
洽く神明を祭て神明その福幸を降のみ

飛ぶ皆しとちり

有鼓自一章

周の天下となり成王
幼少なりて周公攝政

とて宗廟へ奏し、六年周公礼樂を作めり

[illegible]

樂器なり應いしを韓なり田の大鼓なり
 のほ縣鼓鞀鼓磬祝圀をとりしものなり蕭
 い小笛をとりて吹きのなり管の二の笛をとりし
 まうて吹きのなり樂器備りしを
 奏するの聲色の望々と雖和まざる
 ら肅て鳴をととまざるなり先祖の神
 明是を聴めん感應らる我客と志代
 帝王の子孫なり永く此雅樂の徳を觀や
 終り成る樂曲の

香一車

潛一章

先王四季と先祖の廟祭との外は、季節と魚の祭と

[illegible]

猗與漆沮。潛有多魚。有鱣有鰻。有鮪有鰈。

武維后燕皇天

介をうり
とせり

文王と樂うたて宸み簋こと
徹とくたの樂うた歌うたなり

皇天克昌厥後綏我眉壽介以繁祉

太子の^{みかど}祭^{まつり}に^{みかど}祭^{まつり}ハ方々

後我の福祉となすに繁昌せしむ眉壽
くは祭をなして烈に考文王を右に祭又文德

祭
母后大以右

舜公しんこうよりして武王ぶおうの廟みやうに
 祭まつりを助たすけし時ときに樂たのしみなり

載自壁土曰求厥章龍旂陽陽和氣

經史餘志

守國志

中央偉革有鴈休有烈光率見昭考
 以孝以享以介眉壽永言保之思皇
 多祜烈文辟公綏以多福俾緝熙於
 純嘏

有客一章

客有客有亦白
其馬萎
有且
敦琢其旅客有
宿々客有信
信と言ふ之
繫と授て以て
其馬と繫ん薄
く言之と追左
右之と緩ど
既に遙威有福
いと降と孔と
夷

有客一章

有客一章 宋の公微子より周の
 廟に見る時の樂より宋の
 衆の後よりて周の客乃礼と以て
 待饗ありとあり

有客有客亦白其馬有萋有苴敦琢
其旅有客宿宿有客信信言授之絜
以絜其馬薄言追之左右綏之既有
涇威降福孔夷

淫威降福孔夷
 客待の公有て、
 馬白し、
 殷家の旅衆の、
 威儀容、
 其妻且、
 既、
 智を、
 願く、
 執糸繩を、
 以て、
 馬を、
 止、
 歸去、
 之と、
 追、
 薄く、
 止、
 威德、

孔夷易して神明福祉と降るる事

武一章

武一章

武王大功の徳と述べて樂とん

於皇たる武王

於皇武王無競維烈允文文王克開

競と無惟烈允

厥後嗣武受之勝殷遏劉耆定爾功

武之受殷

於皇たる武王の武威なり其の徳の烈と

功と耆定と

の後嗣繁昌の端を開く

周頌閔予小子

子細に民の心より其の徳を以て天下の王

之什四之三

再の功と耆定かよふて天より

周頌閔予小子之什四之三

閔予小子一章

閔予小子一章

成王父武王の薨

病也

作て宗廟に朝するの樂と

閔予小子

閔予小子遭家不造嬛嬛在疚於乎

家の不造

皇考永世克孝念茲皇祖陟降庭止

考永世克孝

維予小子夙夜敬止於乎皇王繼序

皇祖念庭

思不忘

予小子夙夜敬

れ家の固堅造るる予の難溺を遭ふ

繼序して忘不

孝心と盡めたる予常に皇祖文王考武

王の事の一

念なることより

訪落一章

予落と訪て ⑤
時昭考と率之
於乎悠哉
朕未艾
有文將予就之
判渙維予小子
未家之多難
堪也庭上下
降予と紹休

依て先祖の神明も廟庭に來て降
めい目に見るがごとくなすべし
予小子も夙夜敬とて天子の位に
於乎皇王
王の德を以て常の代に繼序と保
くやとて二帝の遺法と貶るるを
畏思て忘不

訪落一章

先祖の廟所と羣の臣下と相
謀るるの樂歌なり

訪予落止率時昭考於乎悠哉朕未
有文將予就之繼猶判渙維予小子
未堪家多難紹庭上下陟降厥家休
矣皇考以保明其身
天下の事と務始
戒め慎むなり

皇考以て
其身と保明せ

敬之一章
敬と天維顯
命易不

敬之一章
敬と天維顯
命易不

敬之一章

成王の群臣の戒めなり

敬之敬之天維顯思命不易哉無曰
高高在上陟降厥士日監在茲維予

聽敬る不^ど止^し
日^ひ就^つ月^{げつ}將^{まさ}學^{がく}有^あ緝^{しつ}熙^し
學^{がく}有^あ緝^{しつ}熙^し
手^て光明^{くわうめい}有^あ時^{とき}仔^こ
肩^{かた}と佛^{ぶつ}て我^{われ}に
顯^{けん}德^{とく}行^{ぎやう}示^しせ

小^{せう}忌^ぎ一^{いつ}章^{しやう}
予^よ其^{その}懲^{ちやう}て^て而^{なん}後^ご
患^{えん}と必^{かならず}む予^よ蜂^{ほう}
と并^{なら}自^{みづか}ら

彼^か桃^{とう}蟲^{ちゆう}と允^{いん}に
拊^ふ飛^ひ維^い鳥^{ちゆう}未^ま
家^けの多^{おほ}難^{なん}と堪^か
と予^よ又^{また}夢^む于^{こゝ}集^{しふ}

載^{さい}其^{その}又^{また}一^{いつ}章^{しやう}

載^{さい}其^{その}又^{また}載^{さい}其^{その}拊^ふ
其^{その}耕^{かう}す^を澤^{さく}々^々
十^{じふ}耦^く其^{その}耘^{えん}

經典餘而

小子不聰敬止日就月將學有緝熙
于光明佛時仔肩示我顯德行
天の命誠不易哉とのをり常々天の高きと
し上^{うへ}に在^ある知^し不^ふと曰^{いは}ふ無^なとるり時^{とき}に降^{くだ}る照^てし
あひ人^{ひと}間の土^{つち}と監^{かん}りしとたりふんとも予^よ智^ちりし
て事^{こと}と總^{そう}聴^{ちやう}敬^{けい}慎^{しん}とく^く心^{こゝろ}を月^{つき}の道^{みち}に將^{まさ}
て事^{こと}と成^{なり}就^{しゆ}る^る先^{せん}祖^その光^{くわう}明^{めい}と緝^{しつ}熙^しとせん
と思^{おも}ふ時^{とき}仔^こ肩^{かた}と佛^{ぶつ}とて我^{われ}に顯^{けん}る^る德^{とく}行^{ぎやう}と
示^しし賜^{たま}ふ

小忌一章

羣臣の助を求めん意なり
訪瀆の詩人なり

予其懲而後患莫予并蜂自求辛

螫虺虺允彼桃蟲拊飛維鳥未堪家多

難予又集于夢

戒王みづくののめ予其
心は懲りてのめい後

の患と懲ては戒し思ひて誠し小事と戒
慎るれい必と大なる禍災を得し易し一の筆に
虫とんどもとるすれとらなどり并て辛
逢し莫ん又桃蟲い小鳥るれどもいつれ
し鵬鷖の大鳥とる^る今予家難
と夥多とん堪とく譬^{たと}ひ夢^むの苦辛中^{ちゆう}に集^{しふ}
異^いなり

載其又一章

田地農作の祖とすりて四
の神明社の神明等と祭る

樂歌

載其又載其耕澤澤十耦其耘但隰

詩經卷之八

或^た來^きて女^をと
 瞻^{かん}載^{さい}ち^て筐^{かう}及^{およ}筥^こ
 其^{その}讓^{やう}伊^い黍^し其^{その}筥^こ
 伊^い糾^{きう}其^{その}鋪^ぽ
 斯^す趙^{てう}以^{もつ}て茶^ち蓼^{りう}
 と華^け茶^ち蓼^{りう}朽^く止^し
 黍^し稷^ぎ茂^{もう}り止^し
 之^{これ}と獲^{とく}と桎^き々^々
 之^{これ}と積^つと
 栗^り々^々其^{その}崇^{さう}
 墉^{よう}の如^{ごと}く其^{その}比^ひ
 櫛^しの如^{ごと}く以^{もつ}て
 百^{ひゃく}室^{しつ}と開^{ひら}百^{ひゃく}室^{しつ}
 盈^{えい}止^し婦^ふ子^し寧^{ねい}止^し
 時^{とき}惇^{とん}牡^まと殺^{ころ}球^{きう}

酌一章

於鑠王師遵養時晦時純熙矣是用
大介我龍受之躋躋王之造載用有
嗣實維爾公允師

酌一章

武王と祭る樂の歌なり武王
能先代聖人の道を酌する

於鑠王師遵養時晦時純熙矣是用

大介我龍受之躋躋王之造載用有

嗣實維爾公允師

今よこの事を嗣用するの實は
爾の公を師と鏡とするなり

桓一章

萬邦屢豐年天命匪解桓桓武王
保有厥士于以四方克定厥家於昭
于夫皇以間之

桓一章

武王と頌の詞は桓
武威をば白らり

萬邦屢豐年天命匪解桓桓武王

保有厥士于以四方克定厥家於昭

于夫皇以間之

今よ屢豐年天命なり王は
匪解を王又賢士君子と申すは保有て
四方を以ては家の定まる光天地を昭し
る皇とらりて殷の代は間あり

賚一章

武王天下を定むる功あり臣下へ
賚するの時の詞なり

文王既勤止我應受之敷時繹思我

但て維定りて
求時周之命於
繹思と

般一章
於皇時周
其高山陟墮
山喬嶽允猶
て河を翕敷
天之下時哀
之對時周之
命

但維求定時周之命於繹思
文王常聖
勤天の命應て受めり我臣下の
者のその徳を繹思ひの人々と率て
天下の定まりを求めん誠周の天命を受めん
所以と繹思ふことなり各々職を務むことなり

般一章

天下定まりて周の世とく
般の意なり

於皇時周陟其高山墮山喬嶽允猶
翕河敷天之下哀時之對時周之命
於千周の御世の盛なり天下太平と
天子諸侯の國々へ巡守するの天下の名山大
川を祭るの鎮守を安置するの極との陟至め
所は墮山喬嶽のゆるば又大河を翕至めんと
なり敷く天下の山川を哀て皆くれ對し
祭め誠周の天命に應て諸侯伯服し

乃民般とを得

魯頌四之四

魯頌四之四

魯の國の書經より蒙羽の
野とて是なり周の長

子伯禽とて封せ

駉四章

駉四章

魯の國の牧野の盛に蓄息や
魯の君は志氣を立めんと

深き徳の美を
頌する詞なり

駉々々々
駉之野在薄
有皇有驪
有黃有車
以彭彭思
無馬之斯臧
思

駉駉牡馬在坰之野薄言駉者有驕
有皇有驪有黃以車彭彭思無驪思
馬斯臧
牡の野馬なり駉々々々馬の腹肥なり
種々の馬の坰野に在るを
見魯の君の遠き思慮驕なり非常の備ふる
馬に及て牧に在る馬に及て臧なり驪は

馬斯作驛
駟青黒
有駘有騊
有駢以車
有維思無
有駟思無

定て畜作こくさく
用めしもの罷る深ゆふり
駟駟

牡馬在坵之野薄言駟者有駟有駟
有驪有魚以車祛祛思無邪思馬斯徂

白毛るをういづれも車は用らる健々善但
るごう右いづれも思の邪曲なく自然なるなり
依してよ

騶騶三章
魯の羣臣君の酒宴ふらぶ
うて君と頌祝詞なり

有騶有騶彼乘黃夙夜在公在公

駟有駟
有駟
彼乘
壯夙夜公在
公在飲酒
驚于飛鼓
驚
て咽々
醉
て言歸于
晉樂い

駟有駟有
馳有彼乘駟夙
夜公之在公之
在於載之燕之
今自以て始也
歲其有之君
子穀と有孫子
論し于之胥
樂心(7)

泮水ハニミヅハ章ハ
 思おもふ泮水ハニミヅと樂たのし
 んて薄うすく其その芹せ
 と采魯侯さいろこう侯こう正ただ
 言いふ其その旂はたと觀み
 其その旂はた々々々々
 鸛聲こゝろこゝろ喙くちばし々々々々

經典餘師

詩經卷之八

114

千疋樂兮

馬肥うまては壯さかるを驅かりて乗のりの黄う

下とてしめしめ人依て忠と致盡とあり君臣相和
 善馬とすあり人依て千里の能あり善臣
 りを引て臣下もささく君の用は堪ふにきく

酒^{さけ}宴^{うたげ}の座^ま上^{かみ}樂^{がく}と舞^{まい}
各々手^てに鷺羽^{さぎば}を持^もて下^{しも}舞^{まい}
賓客^{ひんかく}も酔^{よめ}に舞^{まい}もの
○有駉^{ゆうきやう}有駉^{ゆうきやう}

彼棄牡夙夜在公。在公飲酒振振鷺。

鷺于飛鼓咽咽醉言歸于胥樂兮

男馬をり飲酒の俱に相酌て酔ふやうなり飛
羽と振て舞ゆなり帰る酔て節を過る

[illegible]

彼乘駟夙夜在公在公載燕自今以

始歲其有君子有穀詒孫子于胥樂

今 驥き 黒毛くろけの驥き 燕えんも酒宴しゅえんなり自今いこん是
と始はじて歳さいも有ありて民みんもび君子くんし善

と花^{はな}一^{いっ}君^{きみ}臣^{おみ}百^{ひゃく}姓^{せい}相^{あひ}共^{ども}嘉^か祥^{しやう}と子^こ孫^{そん}と
詔^{みこと}一^{いっ}傳^{でん}祝^{いのち}頌^{うた}の詞^{ことば}なり

泮水八章

洋宮の諸侯の學問處と射
術と行ふ礼と講ずる所と

魯の君^{ぎん}臣^{しん}の所^{ところ}にて酒宴^{しゅえん}と
賜^{たまは}て君^{きみ}と祝^{いわ}頌^{ほめ}の詞^{ことば}なり

思樂洋水薄米其片廣侯辰止觀

其旂其旂シ伐ハ伐ハ鸞ル聲シ噦ハ噦ハ無ク小ト無ク大ク

小魚大魚公の従て于こ邁る

思ふ洋水と樂し

人て薄く其の藻を

采る魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

其の奇を昭々々と

載る色を載る笑ふ

怒る匪伊教を

思ふ洋水と樂し

人て薄く其の藻を

采る魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

其の奇を昭々々と

載る色を載る笑ふ

怒る匪伊教を

思ふ洋水と樂し

人て薄く其の藻を

采る魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

其の奇を昭々々と

載る色を載る笑ふ

從て公の于こ邁る

洋宮の池水を宮と半めぐりて水を

其の威を儀とさんとるに見るとる蓋のの礼とる

魯公の戾を止む觀る其の旂を花とるの車の鸞の聲を

思ふ樂し洋水と樂し

采る其の藻を魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

其の奇を昭々々と

載る色を載る笑ふ

怒る匪伊教を

思ふ洋水と樂し

人て薄く其の藻を

采る魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

其の奇を昭々々と

載る色を載る笑ふ

怒る匪伊教を

思ふ洋水と樂し

人て薄く其の藻を

采る魯侯の戾を止む

其の馬を躑々々と

其の馬を躑々々と

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

明く其の德を明く

作淮夷の服す
倭矯々々鬼臣
洋在て醜を
獻す淑問と臯
陶の如く洋在
て囚を獻じ

濟多士克廣德心桓桓于征狄彼東
東南之狄
不誣于告不洋
在て功を獻

角弓其觶
東矢其搜
戎車孔博徒
御我既克
淮夷卒獲
爾猶不式
固淮夷卒獲
翻彼飛鵠
洋洋林食我
桑黹懷我好
音來其琛
龜象齒大

臣在洋獻醜淑問如臯陶在洋獻囚

○濟
如く敵を討
臯陶の如く
洋宮と修設
の國々々で
服し武臣の
德明の如く
醜を獻す
淑問と臯
陶の如く
洋在て囚
を獻じ

濟多士克廣德心桓桓于征狄彼東

南悉烝皇皇不吳不揚不告于誣在

洋獻功
廣德心桓桓于征狄彼東

夷と平治の時
皇々々々々々
不吳不揚不
告于誣在

角弓其觶東矢其搜戎車孔博徒御

無既克淮夷孔淑不逆式固爾猶

淮夷卒獲

矢を放つと
搜疾なり
戎車孔博
徒御我既
克淮夷卒
獲

○翻彼飛鵠集于洋洋林食我桑

黹懷我好音

彼淮夷來獻其琛元

龜象齒大貽南金

來其琛
龜象齒大
貽南金

閼宮血いみじきけ
 有實あり枚は赫けつ
 姜けい嫫きう其德そのとく
 回くわい中ちゆう不ふ上帝かみ
 是依災これよりわざはひ無害なげな無な
 月つき彌やみ遲おそ
 不是これ后稷こうしやく
 生なま之の百福ひやくふく
 將まさ黍稷しよしやく重おも穆もく
 殖ふ穠のほ麥あひ冬ふゆ

后稷之孫實（の）維大王岐之陽
 居實（の）始（の）商（の）翦文武于（の）
 至（の）大王之緒（の）續（の）天之（の）屆（の）于（の）
 牧之野（の）致貳（の）無虞（の）無上帝女（の）

今ハ非とわくも道を慄服し來て其琛を獻し
に龜と一尺二寸大龜の甲なり南金と南
方荆楊州の金子なり并象齒いづこも
献貢もの琛の品々なり

閔宮九章

億の詞なり上の詩も

闕宮有恤實實枚枚赫赫姜嫄其德
不回上帝是依無災無害彌月不遲
是生后稷降之百福黍稷重穰植穉
苽麥奄有下國俾民稼穡有稷有黍
有稻有秬奄有下土續禹之緒

の母后姜嫄の廟宮とて、闕然血祭して、枚々く
 又實々たり。姜嫄の徳赫々として、貞正なるが故に、
 回那々びたり。上帝の心を依て守護かん。聖人
 人后稷を生かん。すうの災害なく、十月懷妊
 と彌てゐる。よの聖人を世に出し、人后稷始て五
 穀と植て、後世五穀の神とせられ、是天なり。
 百福と降り、人なり。黍稷の後熟する。その
 と重なり、特熟する。ものを稷とて、菽麥を植
 へ、稷の分り、又稲あり。秬、菴、國土と有
 る。万民は、稼穡の功なり。功大なり。
 この時、禹王洪水と治め、后稷五穀を植、
 のを依て、島の緒業と續く。○后

稷之孫實維大王居岐之陽實始翦
 商至于文武續大王之緒致天之屆
 于牧之野無貳無虞上帝臨女敦商

乃ち魯公の命
として東于侯
之の山川土
田附庸と錫
公之孫莊公

子龍旂祀と承
六轡耳々々り
春秋解るる匪
享祀忒不皇々
くろ右帝皇祖
后稷享する驛
犧を以て是と
饗一是と宜一
福を降し
既多周公皇
祖亦其女と福
いふてへ

孫裔よりてその初岐山の陽よりなりし時すてし商
の代を翦くより人徳きなりて人を帰服より
そのうち武王に至て大王なるよりし緒を續て
遂に牧野の一戦より運とせられたるより商の運命
屈り盡より是天の授くをあらかり依て上帝
より汝等と守護しめらるる心は貲心を

同く功を成就せしむるに成王より叔文周公と都し
 とらるる政務をとりおさむるに依て命をうけし
 元子の伯禽と魯の侯とより大よ再の宇内を啓て
 周の望に輔佐
 ○乃命賈公倕侯于東錫

之山川土田附庸周公之孫在公之

子龍旂承祀六轡耳耳春秋匪解享

祀不貳尊皇后帝皇祖后稷享以騂

犧是饗是宜降福既多周公皇祖亦

其福女
右周公且告の後命の伯禽と
東國とて魯侯とてみ山川土田附

庸等と賜ふなり周公をして聖徳なりと
 故に成王より天を祭る天子の礼式を

許あ中ちゅう葉えつすすててななろろてて信しん公こうにに至いたりり周しゅうのの子し孫そん莊しやう公こうのの子しととてて又また德とく公こうにに至いたりり天てん

と祀の礼を承つきて美く龍と画しける旗を建
駕車の馬の六の轡に耳々たるをゆるしなり 春

秋田の祀との礼と武と解なり
皇祖右稷とく享とくよる
驛儀とく

ぞいふり天神を饗宜下あひ依て福幸
 と降しぐふりといふと怨や周公な

秋而載言秋言夏而福衡夏言白牡駢剛白牡駢剛犧尊將將犧尊將將毛魚載毛魚載魚載羹魚載羹豆大房豆大房萬舞洋洋萬舞洋洋孝孫有慶孝孫有慶俾爾壽而臧俾爾壽而臧保彼東方保彼東方魯邦是常魯邦是常不崩不震不崩不震不騰不騰三壽作三壽作朋如岡朋如岡如陵如陵

秋而載言秋言夏而福衡夏言白牡駢剛白牡駢剛犧尊將將犧尊將將毛魚載毛魚載魚載羹魚載羹豆大房豆大房萬舞洋洋萬舞洋洋孝孫有慶孝孫有慶俾爾壽而臧俾爾壽而臧保彼東方保彼東方魯邦是常魯邦是常不崩不震不崩不震不騰不騰三壽作三壽作朋如岡朋如岡如陵如陵

公車千乘公車千乘朱英朱英綠滕綠滕三矛重弓三矛重弓公徒三萬公徒三萬貝冑朱貝冑朱綬綬烝徒增烝徒增戎狄是膺戎狄是膺荆舒荆舒是懲則我是懲則我敢承敢承莫爾昌莫爾昌而熾而熾俾爾俾爾壽壽而富而富黃髮黃髮台背台背壽壽與與試爾試爾昌昌而大而大俾爾俾爾耆耆而艾而艾萬有千歲萬有千歲眉壽眉壽無無害害有有無無

公車千乘公車千乘朱英朱英綠滕綠滕三矛重弓三矛重弓公徒三萬公徒三萬貝冑朱貝冑朱綬綬烝徒增烝徒增戎狄是膺戎狄是膺荆舒荆舒是懲則我是懲則我敢承敢承莫爾昌莫爾昌而熾而熾俾爾俾爾壽壽而富而富黃髮黃髮台背台背壽壽與與試爾試爾昌昌而大而大俾爾俾爾耆耆而艾而艾萬有千歲萬有千歲眉壽眉壽無無害害有有無無

泰山巖々々
魯邦の詹所奄
龜蒙と有遂
大東と荒海
邦于至淮夷來
同率從之
功莫魯侯之

鳥繹と保有
遂徐宅と荒
海邦于至淮夷
蠻貊及彼南夷
率從之

敢て諾セ不
莫魯侯は是若

天公純嘏を
錫眉壽して魯
と保常と許
與居周之
宇復魯侯
燕喜と令妻壽
母大夫庶士宜
邦國是有
既多祉と受
黃髮兒齒

但來之松新甫
之栢是斷是度

是と以て我狄と齊燕の國に懲り征
る中々我とふせき承とわたり
千歳の眉壽大昌と書ける
老人なり又五十者六十台齡の年老て皮ふ

泰山巖々々魯國の鎮守と人皆魯侯の功

巖魯邦所詹奄有龜蒙遂荒大東至

于海邦淮夷來同莫不率從魯侯之

功泰山巖々魯國の鎮守と人皆魯侯の功

鳥繹の二ッ魯の保有と東海の方

○保有鳥繹遂荒徐宅

至于海邦淮夷蠻貊及彼南夷莫不

率從莫敢不諾魯侯是若

土地と魯侯の命と

天錫公純嘏眉壽保魯居常與許復

周公之宇魯侯燕喜令妻壽母宜大

夫庶士邦國是有既多受祉黃髮兒

齒

保て常許の土地と周の宇と復ん

○但

來之松新甫之栢是斷是度是尋是

商頌之什四之五

那一章
猗與那興我
鼓之置鼓之
安
簡々々

て我烈祖之行
湯孫奏假
我思成之綏之
鞀鼓淵々々々
嘒々々々管聲既
和ぎ且平々々
我聲聲々依於
赫々々湯孫穆々
々々厥聲庸鼓鞀
々々有萬舞奕
々々有我々嘉
客有亦夷憚セ
不や古々自在
昔先民作々有
温恭々々朝夕
事と執々恪々

經典餘而

尺松擁^カ有^{メナカシ}鳥路寢孔碩新廟奕奕奚
斯所作孔曼且碩萬民是若^{往來新甫の二山に松}
柏の大樹木多し是と斷度て宗廟と造作いし
すあふなりけるいに尋又い尺むるめ一畝と
楠を用ふるは奕々たり新廟と祿を立うらん
北碩なる路寢と建み是大夫奚斯が造作
と司享し誠と曼碩きとへき

○商頌之什四之五

宋の殷商の後を
依て商の樂歌を

那一章

湯王と祭りの
時の祭なり

猗與那與置我執鼓奏鼓簡簡行我

烈祖湯孫奏假綏我思成。執鼓淵淵。嘒嘒管聲。既和且平。依我磬聲。於赫湯孫。穆穆厥聲。庸鼓有鞀。萬舞有奕。我有嘉客。亦不夷懌。自古在昔。先民有作。溫恭朝夕。執事有恪。顧予烝嘗。湯孫之將。

寺經卷八

十一十一

有予烝嘗之將

烈祖一章

嗟烈祖有秩斯祐申錫無疆及爾
斯所既載清醑賚我思成亦有和羹
既戒既平駿假庶言時康有年
有假以享我受命溥將自天降康豐
年穰穰來假來饗降福無疆顧予烝

烈祖一章

上同き

嗟烈祖有秩斯祐申錫無疆及爾
斯所既載清醑賚我思成亦有和羹
既戒既平駿假庶言時康有年
有假以享我受命溥將自天降康豐
年穰穰來假來饗降福無疆顧予烝

嘗湯孫之將

申祖上烈祖之秩無疆祐福

假以享我受命溥將自天降康豐
年穰穰來假來饗降福無疆顧予烝

嘗湯孫之將
申祖上烈祖之秩無疆祐福
有假以享我受命溥將自天降康豐
年穰穰來假來饗降福無疆顧予烝

玄鳥一章

と祭の樂なり

天玄鳥降而生商宅殷土芒芒古
帝命武湯正域彼四方方命厥后

天命玄鳥降而生商宅殷土芒芒古
帝命武湯正域彼四方方命厥后
有九有商之先后受命不殆在武丁

命く有る先
有る命始
受命始
武丁の孫子
在武丁の孫子
武王勝不
龍旂十乘大
是承邦畿千
維民の止る
彼四海の肇
域四海來假
と來假祈
景貞維河殷
受命咸宜百
是何

孫子武丁孫子武王靡不勝龍旂十
乘大糴是承邦畿千里維民所止肇
域彼四海四海來假來假祈祈景貞
維河殷受命宜百福是何
殷の代り其
最も初如と
説なり殷商の始祖と帝嚳と一の節祭といふこと
狄といふ仲春の月玄鳥さするの節祭といふこと
めて神明の祈りて天子とかり其子と契といふこと
依て天子の命を降めしめて商の先祖と生れしこと
のち湯王武と以て天下四方の域と止る諸
國の后は命ト誓土九有の大地と合めし代々殆
怠りて武徳と以て王となり武丁の御代より
龍の旂と建泰稷と奉て祭と助めし大糴といふ

長發七章
濬哲維商長其
祥と發を洪水
芒々四方禹
土敷方外の大
國是疆幅隕
既長有城
方將帝立子
生

供物の黍稷なり十乗の人数の車なりつるは
万民畿内止する都とて四海服し祈り
の邦々假りて都なりて景山とて景
は大河の地の勢なりて景山とて景
と受て咸く
耳なり

長發七章

商の御代永く天命祥
瑞なりと云ふ

濬哲維商長發其祥洪水芒々禹敷

下土方外大國是疆幅隕既長有城

方將帝立子生商

殷商の代の古
ていつも帝の濬哲なり

の一期天下を治る洪水をいひて
出れ下土の四方を敷治て大國と以て中國の幅
隕は長く疆をいひてつるは簡狄女商の原始と生
すとも方將となりてつるは簡狄女商の原始と生

帝命違不湯于
至齊湯の降
遅く不聖敬
日躋昭假遲
遲く上帝是
祇い帝命九圍
于式

經典餘師

て小国ももてても其理に通達し優劣を率ひ
て越度々教と視ゆる民もそれ應じて盛り
發ふと欲しもうと夫ゆゑ子孫相土といふを
て其徳烈々いつて四海の外までも能く截
整めい

式于九圍

何天之休不競不紱不剛不柔敷政
優優百祿是遒

難不竦百禄是總
湯王大国小国の供貢を
 受けし下諸国を治し駭

天下震動せんや何の難速く福祿を總つるに

武王載施有虞秉鉞
如火烈烈則莫我敢曷苞有三蘂莫
遂莫達九有有截韋顧既伐昆吾夏
桀武德の湯王いし施て載軍兵を遣し手
齊鉞と秉て天下を征のふの烈さし火の
如く敢て曷の者いしてゐる桀王と苞と
韋顧昆吾と三の蘂も勢力なく芽と達遂に
てゐる伐はるはる九州の
邦々載然しとなり
震且業尤也天子降于卿士實維阿
衡實左右商王
中葉より至て少くは殷の
湯王出のい又天
守護するといふ阿衡と卿士の官より

○武王載施有虞秉鉞
如火烈烈則莫我敢曷苞有三蘂莫
遂莫達九有有截韋顧既伐昆吾夏
桀
○昔在中葉有
震且業尤也天子降于卿士實維阿
衡實左右商王

殷武六章

捷彼殷武奮伐荆楚采入其阻哀荆
其阻之采入哀其
荆之阻之哀其
所之截之有
湯孫之緒

殷武六章

高宗中より世に興

捷彼殷武奮伐荆楚采入其阻哀荆
之旅有截其所湯孫之緒
時又世より

維女荆楚
居國南鄉昔有成湯自彼氐羗莫敢
不來享莫敢不來王曰商是常

維女荆楚國の
南郷に居昔成
湯有彼氐羗自
敢て來享せ不
し莫敢て來王
の是常

居國南鄉昔有成湯自彼氐羗莫敢
不來享莫敢不來王曰商是常
て又諭告の詞なり女も國の南郷にありて我
は隨順すべきなり昔湯王の時より氐羗の如く
遠く夷より來服せざるなり是商の御
代の常なり享い貢をさぐるなり又來王

天多辟命設都禹之績之績歲事來辟予禍適勿稼穡解匪

天命降監下民嚴有僭不濫不敢怠遑命于下國封建厥福

商邑翼翼四方之極赫赫

厥聲濯濯厥靈壽考且寧以我後生保

彼景山松栢丸丸是斷是遷方斷是度松栢挺有旅楹閑有寢成孔安

聖史余市

○天命多辟設都于禹

之績歲事來辟勿予禍適稼穡匪解

○天命
勤勞來朝必予禍適勿
○天命

降監下民有嚴不僭不濫不敢怠遑

命于下國封建厥福

○商邑翼翼四方之極赫赫

厥聲濯濯厥靈壽考且寧以我後

生保

陟彼景山松栢丸丸是斷是遷方斷

是度松栢有挺旅楹有閑寢成孔安

夫詩之為德也可以興可以觀可以怨
通之事父遠之事君多識於鳥獸艸木之
名云人不可不學而在上之人最為當務

詩經卷之八

之急夫在九重之內而臨巢穴之民悠
遠相隔如胡越然欲通下情不亦難乎
知稼穡之艱難知小人之依而後可以
言治蓋相通人情莫如詩矣此夫子之
所以列
於經也

詩經餘師終

寬政五癸丑年四月

大坂書林

柏原屋與左衛門

柏原屋嘉兵衛

